

平成31年度（令和元年度） 学校評価総括表

奈良県立奈良朱雀高等学校（全日制課程）

学校運営計画（4月）				総合評価			
教育目標		○人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。 ○ものづくりとビジネスの実習・演習をおして、技術を身に付け社会に貢献できる生徒の育成を目指す。			B		
学校運営方針		「ものづくりとビジネスの出会いをおして人作り」をスローガンに、高等学校普通教育並びに工業科・商業科等に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせて、産業及び文化の進展に貢献し得る豊かな人間性と自立的な態度を育成するとともに、清新な気風に満ちた魅力ある校風の樹立を目指す。					
昨年度の成果と課題		本年度の重点目標	具体的目標				
<p>大幅な遅刻数減など規則正しい生活習慣は定着しつつある。その一方で、学習習慣が定着していない生徒が少なからず存在する。引き続き、規範意識の向上と、生徒指導の充実を図るとともに、各分掌が連携して、基礎学力の確実な定着と資格・技能検定取得や進路への目的意識をもち、主体的に粘り強く取り組むことができる生徒を育成する必要がある。また、専門教育活性化の取組など、全職員が教育目標を共有し、職員間のコミュニケーションを大切にして、組織力の強化を図りたい。</p>		<p>(1) 産業人、社会人として必要な資質を身に付け、社会のルールやマナーを守り、主体的に行動できる生徒を育成する。 (2) 部活動の活性化により、目的意識をもち、協働的に粘り強く取り組むことができる体力や精神力、協調性を養う。 (3) 学校が地域と家庭、企業及び大学等の関係機関と連携し、生徒が目的意識をもって学習活動に取り組むことができるよう、教育内容を工夫・改善する。 (4) 専門教育の活性化に取り組む。</p>	<p>地域行事への参加、ボランティア活動等を通じて、生徒の社会性と規範意識の向上を目指し、地域に信頼される学校づくりを推進する。 身体測定、健康診断、体力テストにより自分の体の状況を把握し、体力の重要性に関する意識付けを行う。部活動への加入率を向上させる。 インターンシップにより、勤労観、職業観を育む。 シラバスに基づいた学習活動を展開し、家庭学習の習慣化、基礎学力の定着を図る。生徒が主体的に進路選択ができるよう、資格や検定取得の意義を理解し、合格できるよう指導する。 プロジェクトチーム、ワーキンググループを中心として検討、研究する。 地域、企業、専門学校、大学等と連携した取組の充実を図る。 職員間、分掌間での意見交流を活性化し、円滑なコミュニケーションを図る。</p>				
教育活動・分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	課題の改善策等	前年度実績と学校関係者評価	
教務	・成績不振生徒の減少を図る。	・第1学期成績不振生徒（欠点科目1科目以上）10%以下にする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振生徒（欠点科目1科目以上）は第1学期 12.9%、第2学期 14.5%であった。うち、第1学期は 88.7%、第2学期は 96.4%の生徒が補充講座、追考査の結果により補正された。 ・第1学期中間考査後家庭学習のアンケート結果は、「毎日やった」「まあまあやった」合わせて 64.8%、「まったくやっていない」 6.9%となる。 ・授業アンケート結果は、質問事項「総合的に言って、この授業に満足している」A そう思う B だいたいそう思う 合わせて第1学期 81.3%、第2学期も 81.3%となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部との連携を図り、規則正しい生活習慣を身に付けること。また、教科との連携を図り、授業を大切にするこで改善方策とする。 ・進路指導部との連携を図り、進路実現と継続的学習活動の充実を図る。 ・各学科、教科との連携を図り研究授業体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業満足度が 80%を超えているのは高く評価できる。 ・専門高校の特色を生かして、すべての教科において学習意欲を高める工夫を講じて欲しい。
	・家庭学習の充実を図る。	・本年度各学年「まったくやっていない」生徒を 0%に近づける。	B				
	・授業の充実を図る	・昨年度の授業アンケート結果は、質問事項「総合的に言って、この授業に満足している」A そう思う・B だいたいそう思う」合わせて 80%を目指す。	A				
生徒指導	・基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・遅刻・欠席防止（遅刻回数、全体で昨年度の10%の減少）	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席・遅刻は、昨年度よりも増加した。 ・通学マナー（自転車・電車等）に関しては、少し苦情を受けることがあった。 ・登下校時の自転車事故が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻等は生徒自身にとって不利になることを日々訴える。進路指導部との連携を密にする。 ・周囲から愛される学校にするために関係機関との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立は確かな学力の定着につながる最も大切なことであり、産業社会の即戦力を育てるため、職員の協働感の醸成と組織力向上を期待する。
		・あいさつの励行（あいさつ運動の展開）	A				
		・集会における自転車乗車マナー・通学マナー電車乗車マナー等向上の啓発	B				
		・自転車マナーアップ隊による自転車乗車マナ	C	B			

		<p>一向上の啓発 ・交通安全教室等の実施により、登下校時の安全確保の取組</p>	B	B		<p>・「交通安全教室」を実施し、安全指導に努めた。</p>		<p>・今後、周辺の交通量の増加が予想され、生徒の安全の確保に尽力いただくとともに、同時に環境の整備にも協力していきたい。</p>
		<p>・薬物乱用防止教室実施による「危険ドラッグの問題」についての啓発</p>	B	B		<p>・「薬物乱用防止教室」を実施し、薬物に対する注意喚起をした。</p>		
進路指導	<p>・卒業までに就職希望者全員の就職先を決定する。 ・面接指導をさらに充実させる。特に、就職希望者には最低4回実施する。 ・専門校入試・公募制入試の合格者を昨年度より増加させる。</p>	<p>・就職希望者に対して、本校教員と外部講師による面接指導を複数回実施し、近年多様化する面接に対応できる順応性を身に付けさせる。</p>	C A	B	B	<p>・就職希望者はほぼ全員が就職先を決定できたが、1次募集の内定率が昨年度より低下した。公務員試験については国家公務員・大阪府庁・奈良市消防等に合格した。 ・進学については国公立大学へ合格することができたが、全体としては、専門校推薦・公募推薦での合格者が減少した。</p>	<p>・就職指導に関しては、1年次より、欠席遅刻等をしていない、資格検定を積極的に取得することを指導する。 ・進学指導については早朝、放課後等の講座を充実させる。</p>	<p>・インターンシップを通じて、産業人、社会人として必要な資質を身に付けて欲しい。 ・様々な入試に対応できる検定上位級の取得を目指す指導体制を構築して欲しい。</p>
人権教育 (特別支援)	<p>・人権を尊重する心の育成。</p>	<p>・人権LHRを企画・立案する。</p>	A	A	B	<p>・LHRのテーマは3年間を見通して定め、それに基づいて各学年の年間計画を立て、ほぼ計画通りに行うことができた。これまでの成果を踏まえ工夫を加えて行うことができた。 ・全校向けの校内人権啓発集会(今年度は講演会) ・職員研修は夏期休業中に講師を招いて行った。また、最新の人権課題についての報告等を主に職員会議の場で行った。就職・進学の近畿統一用紙趣旨違反についての報告を高人教推進委員から行った。 ・年度当初からHR担任と特別支援教育コーディネーターとともに生徒の状況把握と職員の共通理解を深めることに努めた。また適宜、特別支援委員会を開き配慮を要す生徒について対応した。</p>	<p>・教材の精選と取り組む方法についての不断の改善 ・職員研修の質・量とものさらなる充実 ・HR担任をはじめとする職員の連携の不断の強化</p>	
	<p>・特別支援体制の共通理解。</p>	<p>・配慮を要する生徒の把握に努め、教職員、生徒、保護者の共通理解により指導を充実させる。</p>	B	B				
図書	<p>読書活動を通して、思春期における豊かな感受性を育み、自己の内面や社会を見つめる機会をもつことによって自己陶冶に努めさせる。</p>	<p>・朝のMSRなどを通じて、図書への関心を増すための読書活動を促進する。(目標アンケート内肯定的評価80%以上)</p>	A	B	B	<p>・アンケート肯定的評価83%で昨年度より若干上回る(良かった38%・まあ良かった44%)。 ・耐震工事による図書館の引越が2回あり、図書館利用の調べ学習など、十分に取り組むことができなかった。</p>	<p>・読書自体に乗り気でない生徒へのさらなる働きかけが必要。 ・他の授業での図書館利用や自習、補習等での利用も推進する。</p>	<p>【前年度実績】 ・アンケート肯定的評価83% ・図書館利用授業回数10回程度</p>
		<p>・図書館利用の授業を推進したり、読書習慣の定着に努める。(目標図書館利用授業回数延べ10回以上)</p>	B					
特別活動	<p>・部活動への加入率を上げる。</p>	<p>・部活動紹介をより魅力あるものとし、部活動勧誘を積極的に行う。 ・部活動に未加入の生徒の集会をする。</p>	B B	B	B	<p>・全体の部活動の加入率は69%、女子の加入率は55%である。1年生にクラブ未加入者の集会を行った。</p>	<p>・クラブ加入率は女子は増えたが全体は減少気味であった。未加入者の集会を続けていく。 ・役割分担を明確にし、増えた役員分の活動を考えていく。</p>	<p>・全国レベルの大会への出場による活性効果を期待する。 ・加入率の低迷の打開と同時に、未加入者対象の活動を設定して、帰属意識や愛校心を高める必要がある。</p>
	<p>・生徒会活動や各種委員会の活性化に取り組む。</p>	<p>・生徒会役員の自主性を育て、生徒からの発案を引き出す。 ・各委員会の活用方法を生徒会から提案していく。</p>	B B	B		<p>・生徒会役員の立候補者が定数を超えた。広報部員の希望者もおり積極的に生徒会活動を行っている。</p>		

保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康保持増進を高めるため基本的な生活習慣を整えるよう促す。 健康調査等の取組を計画的・継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康調査票等の集約と早期に共通理解を図る。 治療勧告書の意義を周知し、回収率を高める。 懇談時に保護者との協力・連携を図る。 食育に関するアンケート調査の実施。 	A		B	B	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活、かかりつけ医による治療の督促において、より密接に連携を図る必要がある。 1、2年生を対象に食育アンケートを実施し結果を分析した。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度早期より取り組む必要がある。 規則正しい食習慣を奨励する具体的な手立てを考察する。 新型コロナウイルス等も含めた感染症対策の研修を深めたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防に努める。 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> 『前日の校内インフルエンザ患者数』等の掲示物や環境衛生検査結果を活用した換気の指導等を通じて感染症予防意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体作りに対する意欲向上についての研究を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> クラブ加入率を上げる。基礎体力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 男子70%、女子40%の運動部加入を目指す。 新体力テストの学年別平均得点より3ポイントの向上を目指す。 	C	C			<ul style="list-style-type: none"> 運動部へ加入しない生徒への手立てを考える。 加入率の低下と体力の低下について考察する。 	
環境整備 (防災管理・安全教育)	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別、減量を進める。 清掃用具を整備する。 机の天板を更新する。 	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルの持ち込みをなくすようにする。 教室移動のため思ったように更新できなかった。ホウキの先端を取り替えるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化意識の向上に啓発していく。 除草作業を美化委員会が率先してできるようにしていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 防災、安全教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 春と秋に「避難訓練」を実施する。 1月に「防災HR」を実施する。 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> 耐震工事の関係で避難訓練を1月に実施した。雨天での対応を推進できるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 素早い避難ができる避難経路を確立する。
総務	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> メールを活用した保護者連絡システムを広げる。(目標: 1年100% 学校全体90%) (昨年度: 1学年96.4%、2学年88.1%、3学年85.7%、全体81.3%) 	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者連絡システムはやや広げられた。(本年度: 1学年93.4%、2学年96.7%、3学年94.0%、全体94.8%) 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、機会あるごとに(入学式・3者懇談等)周知徹底を図る。(目標: 1年130%、学校全体110%)
		<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の工夫。 ①連絡事項の精選と、緊急連絡と学校行事予定の保護者への周知徹底。 ②発信内容の精度を増すためのチェック体制の整備。 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> 広報活動は適切に行うことができた。 ①連絡事項の精選と、緊急連絡と学校行事予定の配信は適切に行うことができた。 ②担当者→総務部長→教頭のチェック体制は機能していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 受信者でもある育友会の役員の方にも意見を聞き、更なる改善点をさぐる。
機械工学科	<ul style="list-style-type: none"> 伝統技能・熟練技能・先端技術の3つのコンセプトから取組を行い、技能検定や資格取得の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科の取り組みや成果を、本校のホームページに積極的に掲載し、本校・本学科で学んでよかったと答える生徒を育てる。75%以上 その取組の様子や成果を学校ホームページに掲載する 5回以上/年 	B	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 工場見学、卒業生招聘進路懇談会、資格取得等本科のトピックスとして5回以上掲載することが出来た。三者懇談における保護者や生徒本人の反応では概ね満足してもらっていると考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他府県と対比した資格取得率の動向を分析し、生徒の将来を見据えながら、本科としての重点目標を決める。
	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に向けて、学習指導研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導研究研修会を学科内で行う。3回以上/年 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> 学指研の研修会は2回しか実施できていない。しかし、教員間でコミュニケーションを深めながら、授業における観点別評価の問題点や課題を真摯に見つめ、実態をふまえた取組を互いに模索することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導研究会を各学期毎に実施する。
建築工学科	<ul style="list-style-type: none"> 伝統技術・先端技術・起業家育成の3つのコンセプト 	<ul style="list-style-type: none"> コンセプトの取組などから本校本学科で学んでよかったと答える生徒を育てる。75%以上 	B	B			<ul style="list-style-type: none"> 昨年度程度の取組が行え、卒業アンケートの結果も86.5%であった。生徒の状況に合わせ、さら 	<ul style="list-style-type: none"> コンセプトに沿って継続して取り組み、新しい展開
								<ul style="list-style-type: none"> 専門科全科について、机上での学びプラス現場での気づきが大切であり、目配り、気配り、心配りのできる人材の育成を期待する。

	トから取組を行う。	・その取組がマスコミに掲載されるようにする。 5回以上/年	C			なる工夫された指導や取組が必要である。 ・取組をマスコミに掲載されたものは 2回 で目標を達成できなかった。(3/5 現在) ・学科内で研修会を 7回 行った。(3/5 現在)	を図って行く。報道機関にも積極的にアピールを行っていく。 ・継続して研修会を行っていく。	
	・新学習指導要領に向けて、学習指導研究を行う。	・学習指導研究研修会を学科内で行う。 3回以上/年	A	A				
情報工学科	・多くの生徒に、国家資格やものづくりに必要とされる資格を取得させる	・多くの生徒が国家資格を取得できるように指導する。 2年生の取得者 35%以上	C	C		・多くの生徒が国家資格取得に挑戦したが、目標に届かず23%であった。	・目標を達成できるように対策を練り直す。	・前年度より、数値が下がったので、指導方法の見直しと、情報工学科に關係する他の国家資格についても研究する。 ・数値は前年度と同じなので、目標達成のため、1年生の早い段階から技能取得意欲を高める必要がある。
		・各種技能検定試験への受検を積極的に勧め、受験者の増加を図るとともに、技能者の技能習得意欲を増進させる。 合格者10人以上/年	B	B		・受験者の増加は図れた。結果は残念ながら目標に届かず7人であった。	・どの国家資格を受験するか等についても再度、検討する。	
商業科	・全商協会主催検定合格率の向上	・基礎、基本の定着と授業法の工夫及び授業改善に努めるとともに、その成果として全商検定上位合格率の向上を目指す。 全商簿記検定1級 平均合格率30% 全商情報処理検定1級(ビジネス情報) 平均合格率30% 全商情報処理検定1級(プログラミング) 平均合格率30%	B	B	B	・今年度の全商検定1級合格者数は延べ84人で前年比10%減少。簿記検定1級は19%、情報処理検定1級ビジネス情報部門は6%、情報処理検定1級プログラミング部門は6%であった。目標数値に接近するよう精進したい。	各科目とも、学習環境の充実、課題提出や授業内容の工夫、放課後等の補習指導に重点を置いた。	・前年度は全商検定1級合格者数は延べ93人で前年比16%減少。簿記1級は17%、情報処理1級ビジネス情報は13%、プログラミングは11%であった。1級検定の問題レベルが年々上昇しているため。・目標数値に向けて指導を継続し、引き続き生徒の検定取得に向けての取り組みに期待する。
第1学年	・基本的生活習慣の確立	・挨拶の励行 ・遅刻、欠席、早退をさせない雰囲気づくり ・起立、礼、着席（SHR時机上にカバンを置かない） ・遅刻指導や特別指導の減少に向けての指導（学年全体500以下）	A	B	B	・挨拶に関しては、多くの生徒が気持ちよく大きな声で交わしてくれた。予想以上の成果である。 ・生徒間の人間関係の悪化により、出席状況が悪くなった生徒もいた。	・継続して教員の方からも挨拶や声かけをする。 ・学校行事やHR活動を通して良好な人間関係をつくれるよう工夫していく。	・各学年に共通した評価項目である基本的生活習慣の確立は、早期での定着が肝要であり、より高度で専門的な学力の定着を図るために、3年間を見据えた系統的な指導の構築を期待する。
	・基礎学力の向上と習得について	・授業態度の向上と欠点を取らない雰囲気づくり ・提出物の徹底（課題レポート、製図、ノート） 実技に関する科目の理解と確認 ・アルバイトは極力させず、学習、クラブ重視（加入率60%）	B	C	B	・授業への取組はあるクラスによっては教科担当者で大きく態度を変える実態があった。 ・目的を失いクラブの退部者が目立った。	・授業担当者とクラス担任が連携して、個々の生徒に対して細やかな指導に当たれる体制作りを行っていく。	・通学路清掃や地域ボランティアをとおして、地域に愛され、地域の活性化に貢献できる人

	その他	・教室整備の徹底（ロッカー、ゴミの分別、教室清掃） ・保護者との連携を密にする（特に、欠席・遅刻の連絡等） ・全校集会、学年集会については校歌を歌える学年づくりの指導	B A B	B			材の育成に期待する。
第2学年	・基本的生活習慣の確立	・挨拶の励行 ・遅刻、欠席、早退をさせない雰囲気づくり ・起立、礼、着席（SHR時机上にカバンを置かない） ・遅刻指導や特別指導の減少に向けて（学年全体500以下）	A B B C	B	<p>・昨年度よりも、女子生徒からの挨拶が多くなっている。MSRやSHRについても落ち着いて学校生活を送れているものの一部で担任の話をしっかり聞いていない生徒もいる。遅刻については、学年全体で遅刻目標 500 回以下に対して 700 回を越えて、当初の目標を達成できず課題が残った。</p> <p>・学習面では、欠点の解消率が昨年度より約 10% 向上し 72.9%と成果を上げる。進路実現に向けて、あらゆる機会を通して生徒の意識の向上が課題と専念できる環境がある。学年集会時に校歌斉唱を実施中、昨年よりは、校歌をしっかりと歌える生徒が増えているので、継続していきたい。</p> <p>・配慮生徒に対しての対応に各関係機関の連携が図られ成果を得て感謝しています。</p>	<p>・生徒からの積極的な挨拶を強調して広める努力や、遅刻の多い生徒には居残りの実施、または、学年で独自の遅刻防止対策の実施を継続していきたい。</p> <p>・各考查前には、早期から放課後を使って個別に学力補充を各クラスで実施してガイダンスの機会やMSRの弾力的な運用により意識の向上に努める。アルバイトの精査では、共通理解のもと継続実施していきたい。</p>	
	・基礎学力の向上と習得、不認定について	・授業態度向上と欠点を取らない雰囲気づくり ・提出物の徹底（課題レポート、製図、ノート） ・実技に関する科目の理解と確認	A B B	B			
	・進路実現に向けての取り組みについて	・進路指導部や各教科または、関係機関の連携 ・3学期からMSRの弾力的な運用 ・保護者との連携	B A B	B			
	・その他	・アルバイトは極力させず、学習、クラブ重視 ・全校集会、学年集会については校歌を歌える学年づくりの指導 ・配慮生徒について	A B A	A			
第3学年	・基本的生活習慣の確立	・「大きな声」で「元気よく」する挨拶の励行 ・教員に対する言葉遣い、指導を受ける態度など、その場に合った対応をとれるコミュニケーション能力の向上 ・「身だしなみを整えて」起立、「大きな声で挨拶」をして礼、「着席」の号令のもと着席の徹底 ・「教室に居なくなる」、「教室にいなければならない」雰囲気づくりで遅刻・欠席・早退の減少 ・集団生活の中で守らなければならないルールやマナーの徹底した指導	A B B C B	B	<p>・挨拶ができる生徒は多くなってきており、身だしなみについても気を付ける生徒が多くなっているが、言葉遣いについては、まだ改善すべきことが多い。遅刻や欠席は限られた生徒で繰り返しており、全体として昨年を大幅に上回っている。</p> <p>・学習面では、最低限のことだけやっていたら良いという意識が強くあり、より高い専門知識を身に付けようというところまで意識が高まっていない。また、メモを取らせる習慣を身に付けさせようと取り組みを始めたが、習慣化するまでには至っていない。</p>	<p>・学校が生徒にとっての居場所になるよう努めていきたい。また、欠席や遅刻の生活リズムだけでなく、言葉遣いや、公共の場でのマナーなど規範意識についても高めていきたい。</p> <p>・専門知識を身に付けることは、生徒に自信を持たせ、帰属意識の向上にもつながるため、積極的に進めていきたい。また、メモを取らせることで、振り返りと計画を立てるサイクルを身に</p>	
	・基礎学力の向上と習得、専門科目に対する理解と取り組み	・日々の授業を大切に、家庭学習を習慣化させる。 ・誰もが授業を参観できる仕組みを作っていくと共に、担任と教科担当者との連携を密にする。 ・メモを取らせる習慣を身に付けさせ、家庭でやるべきことを理解させた上で帰宅させる。 ・定期考査毎に家庭学習の振り返りを行い、家	B B C B	B			

	<p>庭学習と成績との相関関係を体感させることによる成績の向上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技科目、専門科目の理解と指導の徹底、検定取得に向けて生徒が達成感を味わうことのできる粘り強い指導 	B			<p>付けさせる。家庭学習を定着させるため、学習時間調査を充実したものにし、成績との相関関係を示していきたい。</p>	
<p>・統一した指導の徹底・基本的な生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「担任が最大のフィルター」であることを自覚し、両担任が粘り強く指導するとともに、学年集団が廊下番や授業、月に一度の生徒指導部による頭髪服装点検で説得力を持たせる。 ・MSRの雰囲気を着させる。 ・1分間スピーチを実施し、人前で話すことに慣れさせ、プレゼン能力を高める。 ・保護者との連携を密にし、家庭環境や悩みを共有することでともに子どもを育てている姿勢を示し、学校での指導に理解を求める。 ・学年集団が、生徒の情報を共有しながら連携をとり、指導が上手く進まない生徒を一人の担任が抱え込むことのない集団をつくる。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・MSRの静かな時間は、SHRにつながり、落ち着いた雰囲気朝をむかえられている。 ・進路の実現に向け、1分間スピーチをしようと呼びかけたが、実施するクラスはなかった。しかし、進路の実現については両担任を中心に学校を挙げて取り組むことができたので、一定の成果をあげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1分間スピーチを着させ、早い時期からプレゼン能力を高めていきたい。 	B